

私はこんな風に使っています！

このコーナーでは、「自然農法の種子」を活用いただいている方々に焦点をあて、栽培や種子に対する思い、使用している自然農法品種についてご紹介します。



第2回となる今回は、信州の澄み切った空気と豊かな森に囲まれた飯綱高原の麓、標高1050mにある農業生産法人「水輪ナチュラルファーム」を訪ね、活動の取り組みや栽培、種子に対する思いについて伺いました。

いのちを育む循環型生産活動を目指して

「水輪ナチュラルファーム」の母体である「水輪の会」代表の塩澤研一さんは、「いのちの森構想」という活動を通して、人の生活を総合的に捉え、意義ある生き方を実践することを目的に食や教育、医療等の活動の一つとして、2003年にこの農業生産法人を設立しました。

圃場は畑が5ha、水稻が60aあ

り、農園スタッフは「水輪ナチュラルファーム」に来て今年で10年目となる出荷担当の山下さんと栽培担当の江見さん、そして研修生と実習生あわせて7名で行っています（2012年現在）。

2010年には長野県認定のエコファーマーを取得し、年間60〜70品目の野菜を栽培し、会員制で野菜のセット宅配や系列のレストラン、さらには地元長野県、関東圏、関西圏の自然食品店や飲食店などへも出荷しています。

生命力あふれる野菜づくり

開始当初は、川口由一氏の「自然農」で栽培していたのですが、圃場面積が広いため管理が追いつかず、その後、自然農法センターから自然

研究部 育種課



水輪ナチュラルファームでの麦の加工作業風景（左）ときれいに揃ったハクサイ畑（右）
詳しくはホームページ（<http://suirin-naturalfarm.com/>）をご覧ください。



農法の考え方や現地での技術指導を受けるようになってから栽培が安定し、現在は無農薬・無肥料の「自然栽培」に切り替えています。そのため、品種には草勢が強くて味が良く、何より安心できる種子という観点から「自然農法の種子」を活用しています。

出荷の関係で交配種も使用しているようですが、できるだけ自分達で自家採種した種子や固定種を使用し、今後は、循環型の農業を目指すうえでさらに自家採種を増やしていきたいと考えています。

今回、ニンジンの畑を見学したところ、自然栽培5年目の畑で「筑摩野五寸」（自然農法品種）と「黒田五寸」（固定種）を栽培していました。収穫となる時期に見学しましたが自



水輪ナチュラルファームの圃場全景（上）とスタッフの皆さん（右）

然栽培でも草勢が強く、根の太りも良いニンジンが育っていました。

高冷地で気温が低いため、栽培するうえで播種のタイミングが重要だということ、ダイズとムギ、野菜の作付方法や当地にあった品種選定が課題だそうです。

また、ダイズの残渣や落ち葉、雑草の堆肥を使った良質な育苗用土作りも課題ということでした。

「水輪の会」は農業法人以外にも医療、レストラン、研修など紙面では書ききれない程の様々な活動を展

今号の紹介品種 ニンジン「筑摩野五寸」

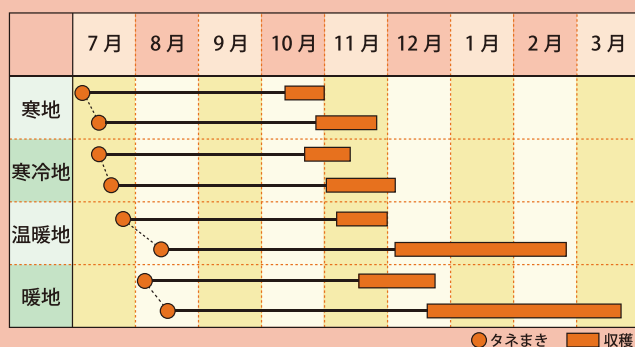
草勢が強く少肥で栽培できる秋冬どり五寸ニンジン。草姿は開帳性、大葉で痩せ地でも根の太りがよく、火山灰土壤に適し、夏播きして晩秋から冬どりに適しています。根部はやや肩が張る円筒形で、甘みがあります。

※粘土質の畑や排水性の悪い畑では、ヒゲ根が多く多くなり、表皮のしわが多くなります。

※秋どりは早い作型よりも遅い作型に適しますが、特に温暖地の極端な早播きはごま葉がれ病や裂根が多くなるので避けて下さい。



作型図



開いています。スタッフの山下さんは、大地の命につながる野菜を「商品」としてではなく、「いのち」を感じる野菜として提供し、農業を土台として食や教育を含めた情報発信や体験ができる拠点づくり、また生から死まで共に生き合うコミュニティを作りたいと、夢を語っていました。

生産する方々がいのちの循環を大切にしているからこそ、野菜を通してその思いが人の心に伝わってくる「水輪ナチュラルファーム」でした。

（原田 晃伸）



元気に育つニンジン「筑摩野五寸」